

## 市民への挑戦状! グループリビング(高齢者生活共同運営住宅)の取り組み ～ 老後のもうひとつの暮らし方を求めて ～

生活クラブやまがた生活協同組合 理事長 井上 肇(都市生活コミュニティセンター監事)

NHK大河ドラマ「天地人」・直江兼続ゆかりの山形県は米沢市で、住民参加型による高齢者福祉の様々な活動・事業が活発に行われています。そしてこの春、老後の暮らし方をテーマとした画期的なプランが幕を開けようとしています。その中心を担っているのは私たちと同じ生協組合員です。今回は、組合員とともに大車輪の活躍をされている井上肇さんにその現状を語っていただきました。井上さんは当団体の監事として御支援をいただいている方です。

### ■ 目指すは、自立と共助の寄り添う暮らし方。

東北初のグループリビングが「COCO結いのき・花沢」(米沢市花沢町)です。3月7日から4日間に渡って開催した内覧会(入居説明会)には総勢65名が押し寄せ、関心の高さを痛感しました。グループリビングとは「介護付有料老人ホーム」でも「高齢者賃貸住宅」でもありません。10人(10部屋+ゲストルーム+地域交流スペース+食堂など)で暮らす「高齢者生活共同運営住宅」です。血縁関係のない高齢者が寄り添って暮らしていく「わが家」であり、老後のもう一つの暮らし方として全国から注目を浴びています。入居条件は基本的には「元気な60歳以上の方」であり、次に「互いに協同しながら、自立と共生を目指せる方」となります。いわば、お互いのプライバシーを尊重し困ったときには助け合う「町内会と隣組」といったところでしょうか。現在、我が国の介護保険や医療保険は破綻の一途をたどろうとしています。これらの保険をできるだけ使わないで暮らせたらどんなにいいことか。そのためにも、「元気な60歳以上の方」たちが社会とは縁が少なくなるとか家に引きこもりになるのではなく、いつまでも社会参加して暮らせるような「町内会と隣組」を作りたいという想いが、このグループリビング「COCO結いのき・花沢」の建設にこめられています。

### ■ 設立・運営主体は生協ではなくNPO。しかし、担い手は組合員。

「COCO結いのき・花沢」の設立と運営は「NPO法人結いのき」が担います。ご存知のように、生協法人は民間団体のように理事会の一存で事が運びません。班会や地区会、運営委員会等々の機関会議で組合員の声を訊きながらですから時間が膨大にかかります。しかし認可申請や運営は時間との闘いなのです。決定的なのは建設費のことです。その実に70%強はJKA(旧自転車振興会)からの補助金でまかなっています。しかし、補助金の対象団体は「NPO法人」や「社会福祉法人」等であり、生協法人には出ません。そこで私たちは「NPO法人」の取得を選択したのです。あとは組合員や生産者からの寄附金や会費が元手です。理事会の構成メンバーには生活クラブやまがた生協の理事がおり、また取引先もおられます。とはいえ、現場を動かしていくマンパワーの主体はもちろん組合員です。たとえば「COCO結いのき・花沢」の食事サービスは「ワーカーズMan-ma」に委託します。このメンバーも組合員です。食材は安心・安全な生活クラブやまがた生協のものが中心です。また、行事やイベントの企画などにもおおぜいの組合員がかかわっており、「町内会と隣組」づくりを側面から支えています。

### ■ 地域への挑戦状。

しかし、この田舎でグループリビングの主旨がどのくらい理解されるかは未知数です。というのも、元気なうちは自分の家で暮らすのが当たり前という考えが圧倒的だからです。そういう方は、結果的には身体が不自由になってから介護保険にお世話になることが多く、「こんなはずではなかった」となるのです。60歳からの元気なうちに、人生の第二ラウンドとしてグループリビングを活用することを考えてもらいたいと、市民に挑戦状を叩きつけてみました。私たちの運動のテーマはいつも「自立」「共生」「協同」です。

◆『COCO(ココ)』にこめた意味。Community(コミュニティー):地域社会とかかわり、Cooperative(コーポラティブ):力を合わせ協同していく、という意味で、2つの言葉の頭文字からとったものです。

◆『結いのき』にこめた私たちの願い。『結い』とは田植えや稲刈りなど労働の助け合いということで使われてきた言葉です。また、人と人が結びつき、心と心が結び合いお互いに支えあうという願いをこめました。「き」は大空に大きく枝を伸ばし広がっていく「木」という意味と、気持ちの「気」の両方の意味をこめました。

※ 「COCO結いのき・花沢」についての詳細は「NPO法人結いのき」でサイト検索してください。

## 西宮NPO等市民活動団体文化祭=すぴりっつ

3月7日(土) \*西宮市市民交流センターにて

### ◆積み木ワールド スタッフ 濱里 宣代

積み木ワールドは西宮すぴりっつの会場の市民活動交流センターで第4土曜日の定例で開催しています。いつもの積み木ワールドは親子同伴の小さな子どもたちの参加がほとんどです。今回は不特定多数の来場者への活動アピールという目的で行ったため、保護者を伴わずに夢中で遊ぶ小学生が多くとても新鮮でした。残念ながら市民活動交流センターはこの7月から2月まで改装工事のため使用できなくなりやっと定着した会場を変更しなければならなくなりました。会場の変更は募集案内チラシでお知らせいたしますので機関紙都市生活を注意して見て下さいね。



### ◆ハーモニー会員 吉川 かおり

「千の風になって」をオカリナ、ハーモニカ、ギターで演奏し、参加者にうたってもらったらいいかも・・・からスタートし、春を感じる歌を歌おう!そして会場が一体となって楽しめるスパークハーフ(大きな軟らかい布)をふわふわやろう!など、私たちメンバーが意見を出し合ってプランを作りあげました。楽器演奏をすると、メンバーが息をあわせないとはいけません。そのため何度か集まって練習し、自信も少しついたところで、いざ当日。

出番は一番目。参加者も徐々に増えて約50人ぐらい。練習の甲斐もあり、演奏はおおむねうまくいきました。どの歌もよく歌ってくださり、「崖の上のポニョ」を口ずさみながら春色のやわらかいスパークハーフを一枚5~6人で持ちみんなでふわふわさせ、にこにこ笑顔でお隣の知らない方もいつしかお話をし、気分もすっきり!25分間でしたが、とても充実していて楽しいひとときでした。

参加してくださった方はもちろん、私たちハーモニーメンバーもミュージックセラピーの醍醐味を感じられた楽しいセッションでした。すてきな機会をあたえていただき、ありがとうございました。

## #b ハーモニーの有料セッションチーム紹介 #b

ハーモニー代表 梶田 美奈子

ハーモニーのセッションはボランティア活動が主体ですが、施設の意向により対価をいただいている有償の活動がひとつあります。それはHAT神戸にある有料老人ホームなのですが、2002年3月からフロア別に月2回のセッションを継続しています。個室タイプの入居施設のため、入居の方が他者と共に過ごすことのできる数少ない場として7年間の実績を積んできました。

不特定多数を対象とした一回性(単発)のセッションではなく、顔や名前のわかっている固定的な方々を対象に決まった頻度(回数)を継続していくという息の長い活動です。長きに渡る関わりだからこそわかる対象者の心身の状態変化を的確に把握しながら、柔軟かつ高度な対応力が求められます。当然のことながら対応するセラピストも固定化せざるをえず、ハーモニー主催の「ミュージックセラピスト養成講座」修了後さらに研鑽を積んだ有志による登録制にしています。また、対象者14名に対して4名のセラピストを配置し、通常のセッションより多くのセラピストが細かく対応します。

しかしながら、この7年間で認知症がかなり進行された方もあり、言葉でのやりとりや運動が日々難しくなっているのをセラピストも実感しています。そこで、毎回季節の歌や行事から見当識(時間や場所や人に関する認識)を確認し、歌唱や体操を通して健康の維持と予防のミュージックセラピーを行っています。さらに、ハーブや歌唱の鑑賞でリフレッシュの時間を持っていただく事や、転倒予防の下肢動作を積極的に行うなど、臨機応変に趣向を凝らしています。



## 2008年度☆介護保険事業報告

★あ・し・す・と(垂水)

★あしすと武庫之荘(尼崎)

●現在、2つの事業所を拠点に都市生活組合員が中心 となってヘルパー派遣事業、障害福祉サービス事業を行っています。

●武庫之荘では居宅介護支援事業(ケアプラン)も行っています。

—●— 垂水  
—■— 武庫之荘  
—▲— 居宅介護支援

